

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1449号 1998年07月27日(月)

## 《 mixed reaction for Mr. Obuchi 》

小渕外相の自民党総裁選出に対する市場の反応は、これまでのところは「mixed」(まちまち)だというのが当たっている。先週末の段階では為替(円)は冷たかったが、株は全般に歓迎した。週初の東京市場は若干の株安で始まっているが、今週も日本の新政権の成立・組閣、新たな政策措置を巡るニュースは、世界の金融市場で大きなファクターとなる。今週の市場は全体的には、様子見の見通し。

先週末の段階で「小渕新総裁選出」を歓迎したのは、「株式市場」です。東京の株価は、小渕氏優勢の見方が強まるとともに、金曜日の引けにかけて大きく値を上げ、日経平均で173.88円、パーセントにして1.1%上昇した。つれてアジアの株も高くなり、それが大幅な下げを繰り返していたニューヨーク市場の金曜日における下げ止まりにつながった。(ニューヨーク・ダウは小幅高で終了)

新総裁は、3人の候補者の中では改革を前面に押し出すことにはどちらかと言えば消極的だと見られた。しかし、現在の日本の経済環境では「(首相になれば)強い措置を取らざるを得なくなる」との見方が強く、なにはともあれ次の日本の首相(予定)が決まったことで、市場は安定感を取り戻していた。(ただし、土曜日の韓国の株式市場は、Samsung groupの新株発行に関する噂で4.5%の急落)

これに対して、見方が厳しかったのは為替市場で、ニューヨーク市場では141円台まで円が急落した。月曜朝の段階でも、円は安い。ただし、ドルが全般に強かったわけではなく、マルクを買って円を売るクロス買いが多かった。この結果、ドルは対マルクでは軟調。対ドルでの円の下げには介入の危険性があるものの、円の対マルクでの下げには「介入の恐れはない」との見方が出たため。ニューヨーク市場では、「小渕氏の選出は新味がないう。市場に respect されている梶山元官房長官が蔵相になれば、円相場は反発する」との見方になっている。

しかし筆者は、「梶山蔵相」は積極的な景気刺激、不良債権問題の早期処理を求める市場の象徴になっているだけで、誰がなつてのこの2点で実績を残せる人なら、円相場がそれほど下がることはないと見ている。この次期蔵相に関しては小渕新総裁は出張先のマニラで、「対外的に政府の意欲を示す、最大最強の方をお願いしたい」と述べている。橋本政権で不良債権処理策作りに中心的役割を果たしてきた加藤紘一前幹事長らを念頭に置いた発

言とも見られている。しかし、一部には「宮沢元首相」を念頭に置いた発言ではないか、との見方もある。

小淵氏は、「ある意味で首相よりも政治責任を負うので、選挙で選ばれた人が良い」と語り、国会議員からの起用を明言して、民間からの蔵相起用は否定している。その上で「特に不良債権問題に果敢に対処し、スピーディーに結論を出すことに期待をもてる方、8月早々から国会審議もあり、経過を十分心得ている方をお願いしたい」と述べた。ここからは、加藤、宮沢の線が出てくる。市場はどちらかと言えば「宮沢待望」だが、次の首相がかかる加藤前幹事長の方が、野党対策を含めて実際に成果を出す蔵相になるかもしれない。新蔵相には、有効な政策以上に国会対策など政策遂行の力を要求される。

小淵新総裁はまた、蔵相以外の経済閣僚に民間人を起用することに意欲を示しており、政策分野ごとに実績を積んだ人材の登用を重視し、「派閥順送り」色は極力避けたい意向を強調している。小淵氏は27日以降、新内閣の閣僚人事をめぐる調整を本格化させる考えという。

### 《 Three demand from the United States 》

東南アジア諸国連合（ASEAN）地域フォーラム（ARF）出席のためマニラに滞在した小淵外相は、オルブライト米国務長官と会談。6兆円超の恒久減税、10兆円を上回る98年度第二次補正予算案の編成、金融機関の不良債権処理などを柱とする新政権の経済対策を説明し、日本経済の立て直しに不退転の決意で臨む考えを表明した。

これに対し、オルブライト国務長官は新政権に三つの要望を出した。これは、従来からのアメリカ側の要望である。

1. 金融機関の健全化
2. 税制改革
3. 追加的かつ継続的な財政刺激策

新内閣の形が見えてきたところで、野党が国会運営に当たってそれぞれの法案についてどういう態度を取るかが明らかになる。週末のテレビを見る限りでは、まだ野党の首相指名や新内閣に対する態度は固まっていないように見える。自由党の野田氏は、首相指名選挙で菅・民主党代表に投票する可能性を示唆している。ただし、一部で予想された自由民主党の分裂がなさそうな状況では、次期総理大臣に小淵外相が就任するのは確実な状況である。

今週は市場が大きく動くには、材料不足。何よりも新政権の政策とそれに対する野党の出方が固まらないと、動けない。今のところ、「最大最強」とか言葉が踊っていて、例えば6兆円の減税や10兆円の公共投資がどういう形で行われるか、その時期（減税や予算執

行の)がいつになるかなどが不明である。

新政権がしっかりした政策を打ち出し、野党が少なくとも重要法案の審議に協力するならば、市場は落ち着きを取り戻すと考える。

### 《 Inflation is not a solution 》

今朝の朝日新聞の社説と日経新聞の経済教室には、「調整インフレ」に対する反対論が掲載されている。筆者は既に7月10日の段階で、

1. 第一に、「物価下落」は世界経済全体を覆っている傾向だし、物価のレベルは世界的な相対比較の中で決まってくる時代になっているのに、デフレを「国内問題」として処理できると考えている点
2. inflation targettingを2~3%に置くと言うが、日銀が今持っている政策手段だけでこの目標をうまくターゲットングできる保証はどこにもない点
3. なによりも、他の痛みを伴う措置(経済の構造改革、規制緩和、税制改革など)を先送りしたい意図が見え隠れすること
4. アジアや世界経済に与える影響が大きい円安を阻止するという現在の日本政府の政策と真っ向から対立する政策であること

と指摘した。最初から無理な「調整インフレ」論に、反対論が強まるのは当然である。日経では、経済研究センターの土志田征一理事長が、「インフレ目標を信じさせようとする前に21世紀の日本経済の発展に対し希望を持たせることが必要である」と述べている。全く賛成である。しかし筆者はもっと重要なのは、消費者としての国民一人一人が自分の将来に確信を持つことだと思う。国はその環境を整えれば良い。

週末に目を引いたニュースは、「BTとAT&Tが合併 国際通信で主導権」です。クライスラーとダイムラーに続く、「大西洋をまたいだ大型合併」。それによると、英国最大の通信会社ブリティッシュ・テレコミュニケーションズ(BT)は、米国の通信最大手のAT&Tと国際通信の分野で提携し、年間の売上高100億ドル(約1兆4200億円)規模の新会社を合併で設立する。提携により、両社は国際通信市場で圧倒的な優位に立つことになる。

新会社は、英米両国内市場への接続で協力するとともに、世界の通信業者とも協調関係を深めて、電話やデータ通信などのサービスを提供する。特に金融や石油、情報など、BTやAT&Tの大口顧客250社への包括的な通信サービスの提供に力を入れるという。

両社の合併は、企業の活動領域が急速に「国境の軛」を越えつつあることを示している。もともと「通信」は国境の概念に馴染みにくい。規模が極めて重要な領域である。日本が国内調整さえできずに、国際市場への進出で後れをとっているのと、このアングロ・サク

ソニー二社の動きは対照的だ。

今後は、アジア市場をめぐる主導権争いが国際通信業界の焦点になる。当面はNTTがどこも協力関係を深めるかが注目されると言える。

今週の主な予定は、以下の通りです。

27日(月曜日)	6月の企業向けサービス価格(日本銀行)
28日(火曜日)	日本銀行政策決定会合
29日(水曜日)	速水日銀総裁会見 6月の日本の鉱工業生産
30日(木曜日)	臨時国会召集、小淵内閣成立の見通し
31日(金曜日)	6月の日本の完全失業率(総務庁) 6月の有効求人倍率(労働省) 日本銀行が金融政策決定会合の議事録発表 (6月25日分) 4-6月期の米国内総生産(GDP)速報値

### 〈 have a nice week 〉

週末は梅雨が上がったのか、上がらないのか。はっきりしない空でした。東京では日曜日の昼頃には雨も上がって「さあ夏」という雰囲気になったのに、夕方にはまた曇り。雨も。昼間は外で運動していましたが、気分が良かった。今週が7月の最終週で、来週はもう8月。

週末は Windows98 の発売でしたが、販売店は総じて静かだったようです。所用があって新宿に行って「さくらや」に寄りましたが、店員の表現は「(販売状況は)そこそこです」というものでした。私も Windows95 の時には夜中に買いに行きましたが、今回は既にテスト版(Windows98)を試していて、OSの更新は来年早々に出る Windows NT 5.0 まで待つ予定で、Windows98 は眺めただけでした。

もっとも、一つ面白いソフトを買いました。「ケイタイ・エディー」。これが何をするかというと、携帯電話の中身の短縮登録をパソコンの画面に呼び出して、パソコン画面上で編集でき、また携帯電話に戻せるというもの。このソフトウェアを作った会社のホームページは「<http://www.incrementp.co.jp/pc/eddy>」です。

頭痛の種だったのです。携帯電話の中身が分からなくなっていて。このソフトを使って最高300件まで登録できる携帯電話メモリーのうち、何件使っていたのかがこれでやっと分かった。一種のブラックボックスだったのですが、携帯電話の中身をパソコンに表示させたら103件の登録があった。

それを整理して、新たに20件くらいを入力して携帯電話に送り、今回の作業は終了。

何番に何が入っているかどうかをプリントできますから、今までのダブリとか間違いも直すことができる。便利です。やることと言えば、パソコンにソフトを入れて、あと携帯電話とパソコンを付属のケーブルで結ぶだけ。ただし、身近にこのソフトを入れたパソコンをもっている人がいたら、ちょこっと貸してもらうのも手かもしれない。少ない登録番号確認・修正を1万円弱のこのソフトでやるのはもったいない。

知りませんでした、来年の1月1日から携帯電話（PHS）の電話番号が現在の10桁から11桁になるらしい。しかし、今回のソフトは一発で11桁の並びに変えてくれる。大阪の市内局番4桁化も来年。来年早々は、電話がらみで忙しい。そして、2000年は「Y2K」でコンピューター関連が忙しくなるというわけです。

なお、都合により今週末はこのニュースはお休みします。

<http://www.ycaster.com/>